

コシヒカリが作付の48%

—— 県内における水稻うるちの品種別作付状況調査結果 ——

茨城食糧事務所 調査課

この調査は、食糧管理法第13条にもとづき食糧管理に必要な基礎資料を得るため、昭和26年以降毎年6月1日現在において生産者から申告を求める方法により実施しているものである。

本県における品種別作付面積の推移をみると、明治末期から大正時代にかけては、常豊と愛国茨城2号が最も多く、昭和初期においては常豊が減少し無芒愛国が増加した。昭和8年にはこの2品種で50%を占め愛国系が本県米作りに貢献した時代であった。愛国系は戦後の昭和28年頃まで作られ姿を消したが、長い期間にわたって作られた戦前における代表品種であった。

昭和15年頃から愛国系に変わって農林1号及び農林3号がかなり普及された。戦後は食糧難時代で、農業資材の不足等もあったが、多収穫品種に切換えようとしていた時代であって雑多な品種が多くとりわけ目立った品種はなかったようであるが、その中で農林29号が昭和26~28年には30%近くの作付比率を示したことは当時の代表品種であったといえよう。

その後、農作業の機械化、土地改良事業の進展、農業技術の向上と相まって作付品種も幾多変遷を経て現在に至っている。その間、昭和43年には米の過剰時代を迎え、昭和44年度から稲作転換等も行われ、46年度に至っては本格的に米の生産調整並びに稲作転換等が5ヶ年計画が行われることになり、48年度で休耕奨励金は打ち切られたものの稲作転換等は50年度まで実施することになっている。

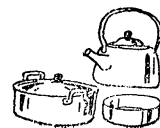
こうした米をめぐる諸状況の変化に対応して、茨城のうまい米づくり推進本部も設置され、如何に茨城米の声価を上げるか関係機関をして努力しているところである。

さて右表にみられるように最近においては、コシヒカリが常に作付比率の第1位を占め、48年産では48%の比率となっている。稈弱の欠点はあるが過去においてこれ程普及された品種はなく自主流通米として茨城米の声価高揚の見地からも最良の品種といえよう。これがため県下全域において作付されており本県における唯一の指定銘柄となっている。

第2位は日本晴で、43年から台頭してきた品種で以後コシヒカリに次いで安定した作付比率を示している。

第3位はトドロキワセであるが、これも日本晴より、1年おくれで急激に増加した品種であり、ハウネンワセに変わって早場地帯で多く作付されているものである。

以上が現在茨城における基幹3品種でありその作付比率は89%を占めている。その他品種ではトヨニシキが県南部で増加しているが、トヨニシキは強稈多収で玄米品質は良いが食味が落ちることから問題を残しているようである。



茨城県における水稻主要品種の作付面積の推移

単位ヘクタール
() 内作付比率%

年次	39		40		41		42		43		44		45		46		47		48		
	順位	面積	順位	面積	順位	面積	順位	面積	順位	面積	順位	面積	順位	面積	順位	面積	順位	面積	順位	面積	
コシヒカリ	1	(25) 22,600	1	(28) 25,454	1	(34) 30,612	1	(35) 33,373	1	(37) 36,445	1	(36) 35,982	1	(37) 34,146	1	(44) 40,123	1	(45) 41,411	1	(48) 43,161	
農林29号	2	(12) 11,071	3	(9) 8,342	4	(6) 5,412	5	(4) 4,200	7	(3) 2,475	12	(1) 1,204									
ホウネンワセ	3	(12) 10,709	2	(13) 11,552	2	(13) 12,112	2	(12) 11,561	2	(10) 10,151	3	(9) 8,591	4	(5) 4,308	4	(3) 2,550	4	(3) 2,395	5	(2) 1,912	
クサブエ	4	(8) 7,243	5	(8) 7,220	5	(6) 5,266	7	(3) 3,189	10	(2) 1,546											
中生新千本	5	(8) 6,842	4	(8) 7,248	3	(8) 78088	3	(7) 6,600	5	(5) 4,582	9	(2) 1,833									
越路早生	6	(5) 4,319	6	(4) 3,996	8	(3) 3,143	10	(3) 2,331	11	(1) 1,435											
トネワセ	7	(4) 3,789	8	(3) 3,074	9	(3) 2,368	13	(2) 1,729	14	(1) 1,033											
若葉	8	(4) 3,428	7	(4) 3,568	7	(4) 3,165	8	(3) 2,804	8	(2) 2,042	11	(2) 1,624	10	(1) 1,200							
キンマサリ	9	(4) 3,189	9	(3) 2,449	11	(2) 2,021	12	(2) 1,915	12	(1) 1,285											
農林35号	10	(1) 1,235																			
新木2号			10	(2) 2,113	6	(4) 3,332	6	(4) 3,313	6	(3) 2,963	8	(2) 1,888									
フジミノリ			11	(1) 1,071	10	(2) 2,209	4	(5) 5,086	4	(8) 7,411	4	(8) 7,519	6	(4) 3,415							
マンリヨウ					12	(1) 1,199	9	(3) 2,691	9	(2) 1,948											
日本晴							11	(2) 2,161	3	(9) 8,777	2	(18) 17,963	2	(24) 22,175	2	(24) 21,812	2	(24) 22,193	2	(23) 20,836	
レイメイ											5	(3) 2,904	9	(1) 1,295							
トドロキワセ											6	(2) 2,412	3	(11) 10,327	3	(20) 17,606	3	(20) 17,910	3	(18) 16,542	
ハツヒノデ									13	(1) 1,244	7	(2) 2,269	8	(1) 1,332							
秋晴											10	(2) 1,804	7	(2) 1,507							
ツクバニシキ												5	(4) 4,014	5	(2) 1,918	5	(1) 1,230	6	(1) 1,016		
トヨニシキ																6	(1) 1,071	4	(3) 2,618		
ヤマミノリ											13	(1) 1,134									

(注) 作付面積1,000ヘクタール以上の品種を計上した。